

令和7年度地域経済動向調査結果

福山北商工会

本調査は、福山北商工会経営発達支援計画に基づき実施するもので、地域経済分析システムRESASを活用し、当商工会地域が属する福山市の状況を分析し報告するものです。

RESASとは

RESASは「地域経済分析システム」の略称で、地方創生の取り組みを支援するために、人口、産業、観光、人の流れといった官民のビッグデータを集約・可視化するシステムです。誰でも利用でき、地域ごとの現状や課題を地図やグラフでわかりやすく分析し、客観的なデータに基づいた政策決定や企業活動に役立てることができます。

RESAS 地域経済分析システム

仮説を根拠へ

RESASは、地域経済に関するビッグデータを地図上やグラフで見える化できる政府のシステムです。

分析を開始する



マーケティング



観光



人口



産業構造



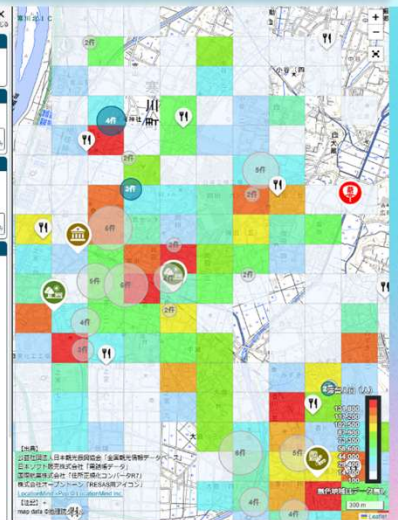
地域経済循環



農林業漁業

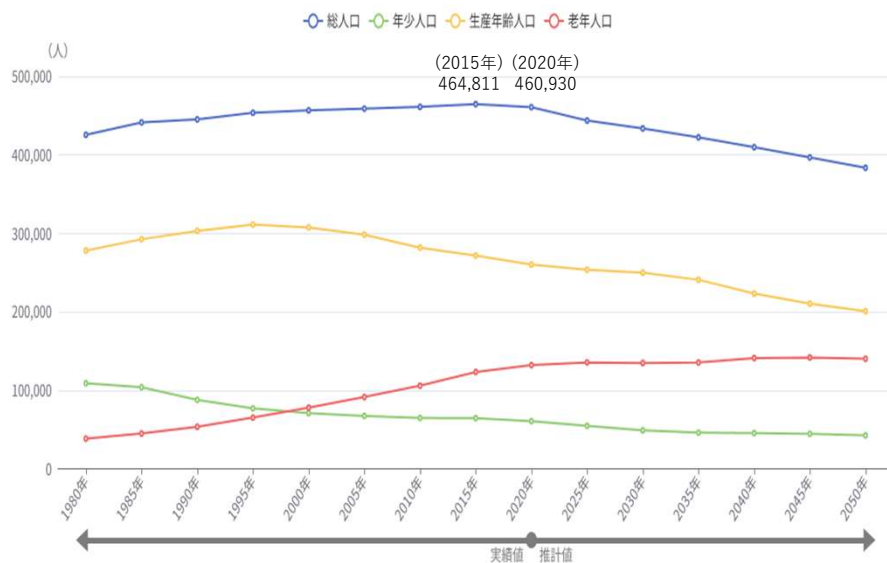


医療・介護

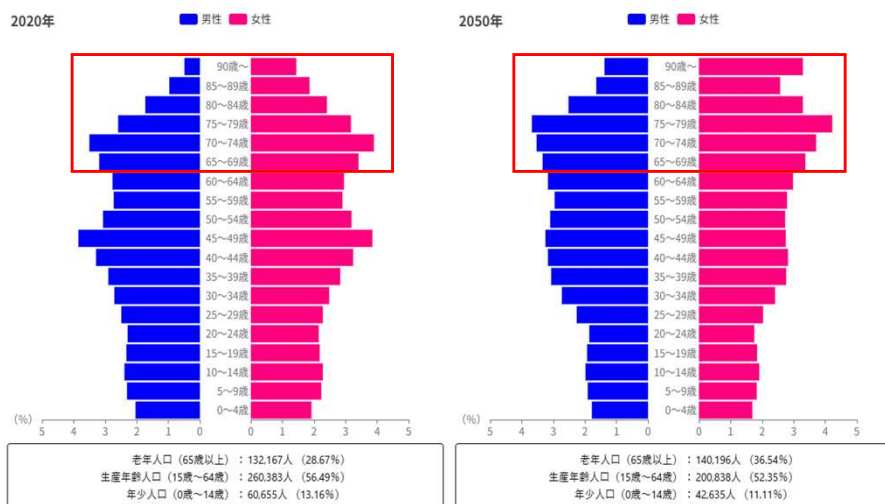


出典：地域経済分析システムRESAS HP
<https://resas.go.jp/>

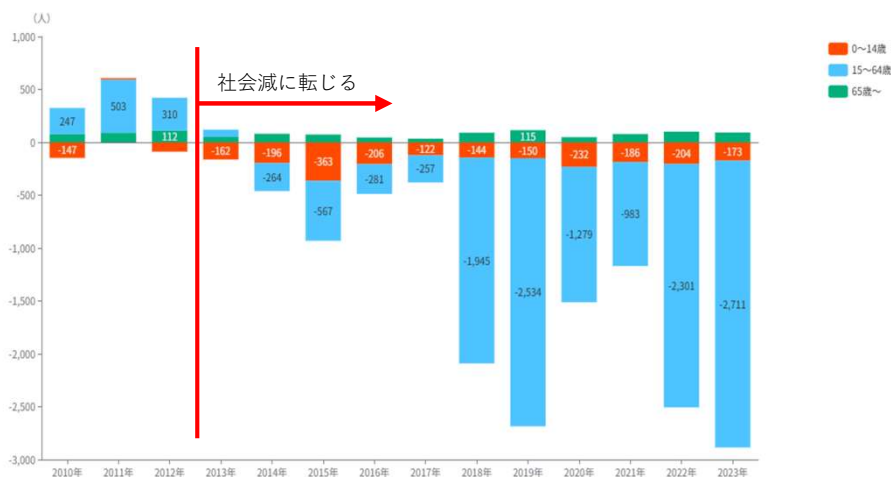
人口マップ



人口マップ－人口構成分析－人口推移



人口マップ－人口構成分析－人口ピラミッド



人口マップ－社会増減分析－人口移動

年齢別人口推移 (2020年)

2020年の人口は460,930人、2015年をピークに減少に転じ、今後も減少傾向が続く予想となっている。年齢別では、老年人口が微増傾向の一方、年少人口・生産年齢人口は減少傾向が続いていき、より少子高齢化傾向が強まる見込みである。

※年少人口：15歳未満、生産年齢人口：15歳～64歳、老年人口：65歳以上

人口ピラミッド

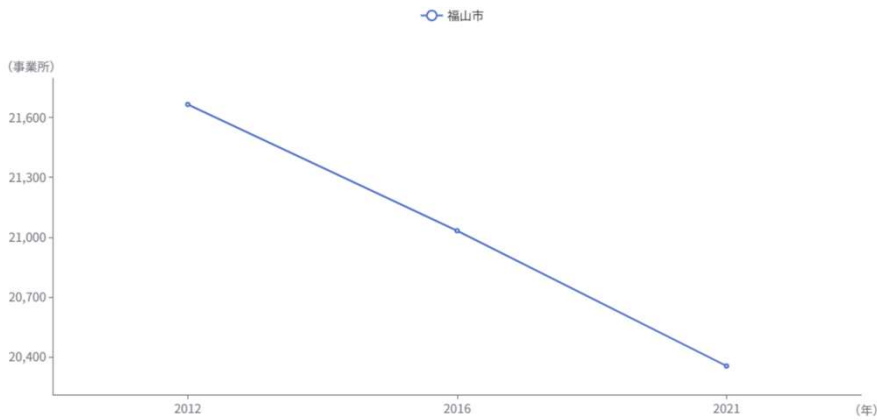
現在と将来の年齢別人口構成を表したグラフで、2020年と2050年との比較で、老年人口の割合が28.6%⇒36.54%に上昇する一方、生産年齢人口は56.49%⇒52.35%に減少する見込みである。

社会増減 (年齢階級別純移動数)

年齢階級別の社会増減を表したグラフで、2012年までは転入が転出を上回っていたが、2013年からは逆転し転出傾向となっている。最近では、生産年齢人口（15歳～64歳）の転出が顕著に見られるようになった。

産業構造マップ

事業所数（事業所単位）
すべての大分類

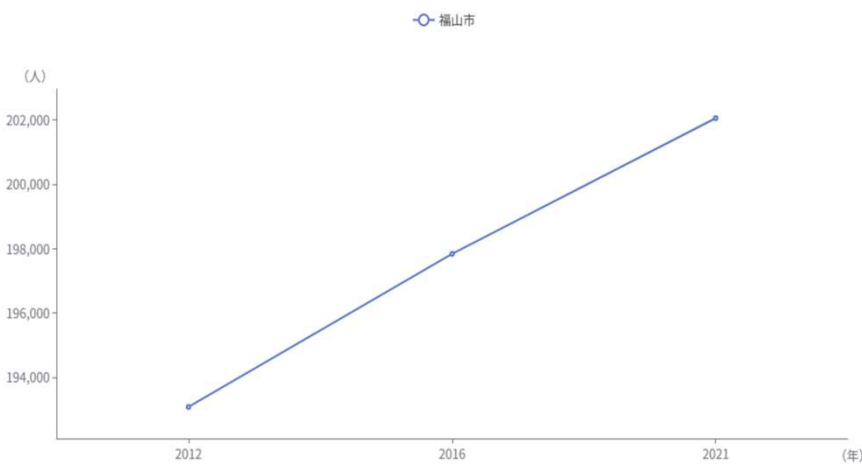


産業構造マップ－産業構造分析－推移（全産業）－事業所数（事業所単位）

事業所数

「経済センサス－活動調査」（2021年）による福山市の事業所数は20,353で、2012年の調査時点と比較すると約6%減少している。背景として、小規模事業者を中心とした後継者不足による廃業増加が主要な要因と考えられる。一方で、コロナ後にかけて「飲食業」「対人サービス業」が微増している。

従業者数（企業単位）
すべての大分類

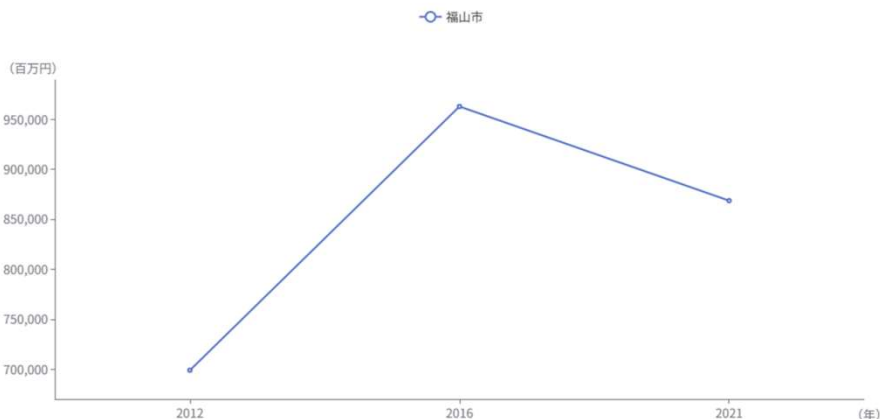


産業構造マップ－産業構造分析－推移（全産業）－従業者数（企業単位）

従業者数（企業単位）

2012年から2021年にかけて約4.6%の増加となった。事業所数が減少している一方で雇用は増加しており、企業集約化・規模拡大が進行したことが示されている。また、介護・医療・建設・物流などの労働集約型業種で雇用が増加したことも要因として考えられる。

付加価値額（企業単位）
すべての大分類

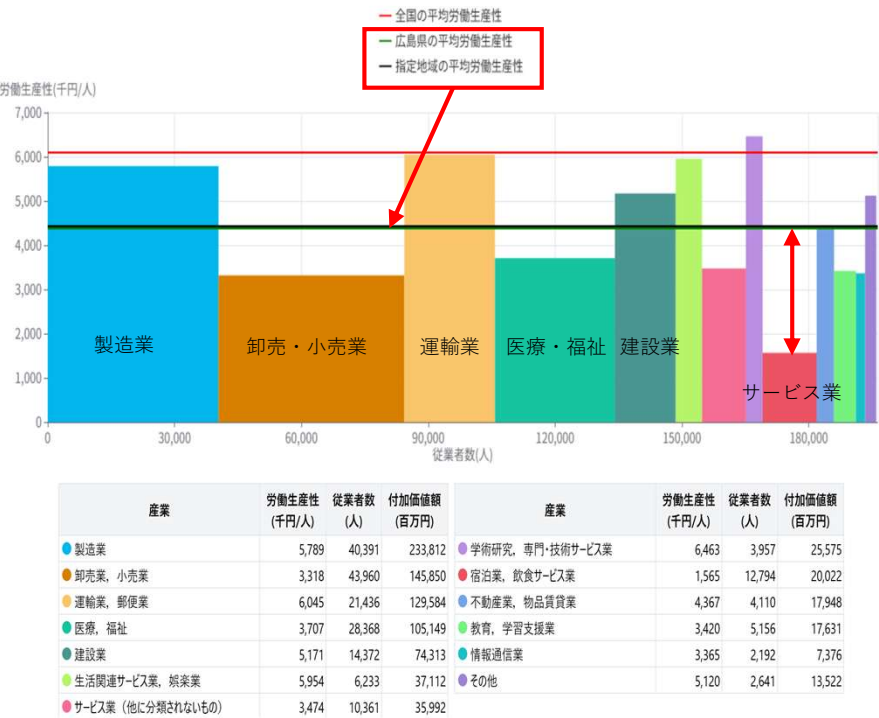


産業構造マップ－産業構造分析－推移（全産業）－付加価値額（企業単位）

付加価値額

2012から2016年に急増した後、2021年には減少している。2016年時点で製造業の収益性が高まったが、2021年は資材価格上昇・エネルギーコスト増・コロナによる生産調整の影響が見られる。生産効率の改善が一服し、粗利益率が低下したと推察される。利益構造の改善・生産性向上が今後の課題である。

産業構造マップ

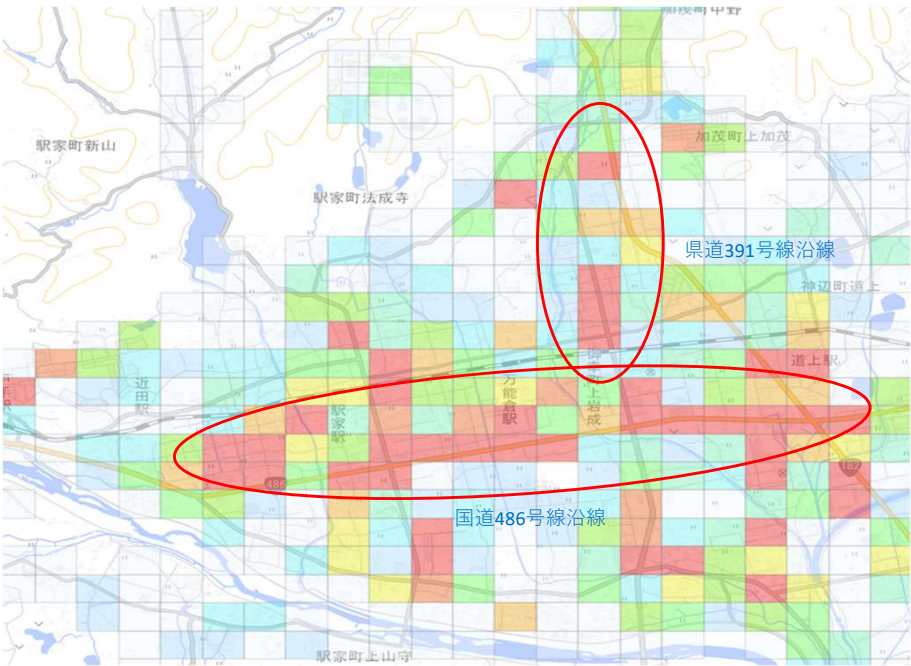


産業構造マップー産業構造分析ー推移（全産業）ー付加価値額の構造分析

付加価値構造と労働生産性

付加価値額のトップは製造業で、従業者数・生産性ともに高く、地域経済の基幹と言える。雇用吸収力が最も高いのは卸売・小売業で、労働生産性は低いものの、雇用創出に寄与している。また、医療・福祉が付加価値額も10万億円を超え第3の柱に成長した。少子高齢化を背景に安定した雇用を生み出しているが、生産性はやや低い。建設業・運輸業は労働生産性が比較的高水準で、公共事業・物流需要の堅調さを反映している。一方でサービス業の労働生産性が非常に低くなっている。

マーケティングマップ



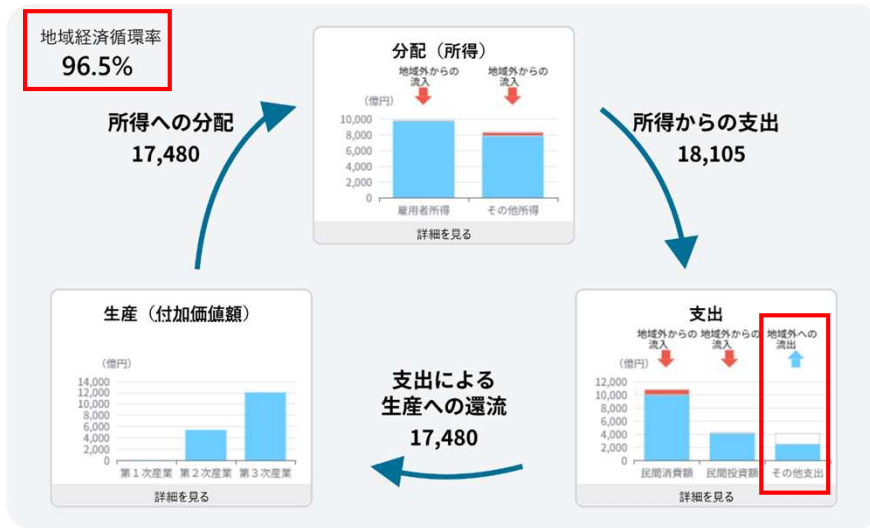
マーケティングマップー滞留人口メッシュ分析ーメッシュマップ

滞留人口メッシュ分析

滞留人口とはある地点に15分以上滞在している人の1時間あたりの人数で、赤・橙が滞留人口が多い。福山北商工会地域では、国道486号線沿線を中心に滞留人口が集中している。また、駅家町万能倉から加茂町上加茂にかけての県道391号線沿線にかけても一定の密度が見られる。

地域経済循環マップ

地域経済循環分析
2018年
指定地域広島県福山市



地域経済循環分析

地域内で生まれた所得・支出・生産のうち、どれだけ地域内で再循環しているかを示す指標で、福山市は全国平均（約90%）より高く、地域内経済の自立性は比較的高い。一方で、製造業を中心に原材料・部品・物流・設計等を他地域から調達している構造が見られ、生産支出の4割が市外へ流出しており、サプライチェーンの再構築が課題となっている。

地域経済循環マップー地域経済循環分析ー地域経済循環分析

まとめ・課題

- 若年層を中心とした生産年齢層の地域外流出、高齢化進行の中での労働力確保が最重要課題
- 地域内での取引拡大を通じた地域循環率向上による地域経済の活性化
内循環の向上
- サービス業など労働生産性の低い業種の生産性向上（DX化など）
- 後継者不足に対する事業承継・事業継続対策が急務